

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No. 242

2025年12月15日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

「幸せ」について伝え合おう～ちいちゃんから感じたこと～

日本語教育部会授業研究会

日本語教育部会は、“すべての子どもたちをすぐれた日本語の担い手にする”ことを心の真ん中に置き、『「ことばの力」をつけることによってすべての子どもに学びの保障をする』ことを主として活動にとりくんできました。

そのための実践方法模索の一環として、10月にたつの市内の小学校にて授業研究会を実施しました。今回は3年生の教材である、あまんきみこさんによる絵本・童話作品『ちいちゃんのかげおくり』を題材に、下記のことをめざして授業を計画・実践しました。

【知識及び技能】《様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。》

【思考・判断・表現】《読んで理解したことにもとづいて、考えや感想をもつことができる。》

《気持ちの変化や情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。》

【主体的に学習に取り組む態度】《読んで理解したことにもとづいて考えをもち、伝え合いながら、自分の感じたことをまとめようとしている。》

まず授業に先立ち、これまでの平和学習をふり返らせ、戦争についてもっているイメージや自分たちの思う「幸せ」について話し合わせたことで、本時の中心である「ちいちゃんの『幸せ』との違いを感じさせる」ための手立ての一助としました。その上で、「自分たちとちいちゃんの『幸せ』について感じたことを伝え合う」という学習のゴールを明示し、子どもたちに本時学習の見通しをもたせました。

次に、場面が転換していく中でちいちゃんの気持ちの移り変わりや、物語の前半と後半の2回のかげおくりの描写を比較しながら、最期のちいちゃんの思いについて話し合わせ、そこから、本時の学習のゴールである「ちいちゃんの幸せと自分たちの幸せの比較」へと発展させて考えさせました。その話し合いの中で、子どもたちが互いの意見に「なるほどお～！」や、「へえ～！」と共感する姿が見られたことがとてもほほえましく感じられた一方で、そうしたあたたかな雰囲気での話し合い活動ができるにまで至らしめた、「話す・聞く」ことに関する今日までのきめこまやかな指導とその不断の努力が垣間見られたことがとても印象的でした。

授業後の研究協議では、上記の話し合い活動における規律性の高さや、子どもどうしによる主体的な声かけや反応の良さ、そしてそれらにより生まれている、「個」が保障されていることが感じられるあたたかな授業の雰囲気といった、「『学びの保障』のための土台である『個の保障・尊重』がなされている」とことと、その重要性が話題に上りました。また、最期の時に家族にもう一度会えたちいちゃんの「幸せ」は、今の自分たちが思い描く「幸せ」と同じ方向性・領域のものなのかを比較させることで、「もう一段階、学習の目標に迫る授業展開ができたのではないか」、「最終段落、現代の子どもたちの姿を描いている場面を活用することで、作者であるあまんきみこさんがこの作品に込めたメッセージにもより迫れるのではないか」など、この教材の読みをさらに深める問いや考えが多く生まれました。

これからも“すべての子どもたちをすぐれた日本語の担い手にする”という大テーマを具現化するため、子どもたちが主体的に生き生きと国語の学習に臨むことができる教育（授業）実践のあり方を模索していきたいと考えています。

（本授業の授業案は「組合員専用ページ」⇒「各部会研究授業 指導案等」に掲載しています。

ID・パスワードは各地域組合へお問い合わせください。）

★兵教組 HP 組合員専用ページ⇒

